SONY

2-681-186-**02** (1)

デジタル一眼レフカメラ取扱説明書

はじめにお読みください

α100

DSLR-A100

本書と**別冊の「デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 活用編・困ったときは」**をよくお読みのうえ製品をお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、人身への危害や火災などの財産への損害を与えることがあります。

「活用編・困ったときは」の3ページと155ページから158ページに、製品を安全にお使いいただくための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。ご使用の前によくお読みください。

■『α』オフィシャルサイト

http://www.sony.co.jp/alpha

デジタル一眼レフカメラの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）はこちらのホームページから。

『α』専用サポートサイト

http://www.sony.co.jp/alpha/support/

■ 使用上での不明な点や技術的なご質問

ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク

- ナビダイヤル

 ………………… 0570-00-0770

 （全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

- 携帯電話・PHSでのご利用は

 ……………………… 0466-38-0231

 （ナビダイヤルが使用できない場合はこちらをご利用ください）

受付時間：

月〜金曜日：午前9時〜午後8時

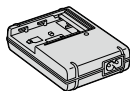
土、日曜日、祝日：午前9時〜午後5時

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

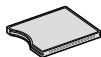
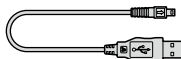
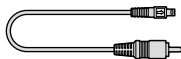
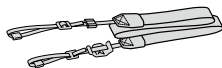
Printed in Malaysia

付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
（　）内は個数

- バッテリーチャージャー BC-VM10（1）

- 電源コード（1）

- リチャージャブルバッテリーパックNP-FM55H（1）

- コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプター AD-MSCF1（1）

- USBケーブル（1）

- ビデオケーブル（1）

- ショルダーストラップ（アイピースカバー、リモートコマンダークリップ付き）（1）

- ボディキャップ（1）（本機に装着）

- アクセサリーシューキャップ（1）（本機に装着）
- CD-ROM（α100アプリケーションソフトウェア）（1）
- デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 はじめにお読みください（本書）（1）
- デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 活用編・困ったときは（1）
- 保証書（1）

ご注意

- バッテリーはNP-FM55Hをご使用ください。NP-FM50、NP-FM30は使用できないのでご注意ください。

取扱説明書の構成

本書

まずは準備をして、簡単に撮影しよう！

本機を使うための準備と、基本的な撮影・再生の方法を説明しています。

付属品を確認する..........2
1 バッテリーを準備する..........4
2 レンズを取り付ける..........6
3 電源を入れ、時計を合わせる..........8
4 記録メディア（別売）を入れる..........10
5 簡単に撮る（オート撮影）..........12
撮影可能枚数..........13
構えかた..........13
手ぶれ補正について..........14
ピント合わせ..........15
フラッシュ撮影するには..........16
視度を調整するには..........17
6 画像を見る/消去する..........18

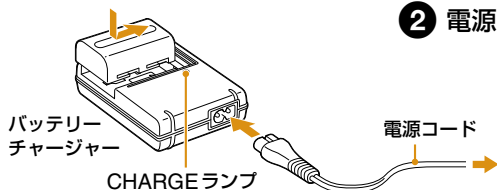
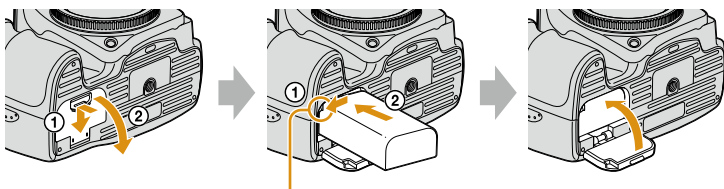
別冊「活用編・困ったときは」

少し慣れたら、本機の機能を使いこなそう！

- お好みの設定で撮影する→各種機能の説明（撮影）
- お好みの設定で再生する→各種機能の説明（再生）

さらに、パソコンやプリンターとつないで楽しもう！

- メニューを使って、さまざまな撮影/再生を楽しむ→メニュー機能
- 画像をパソコンに取り込んで活用→パソコンで楽しむ
- 本機をプリンターに直接つないでプリント→画像をプリントする

1 バッテリーを準備する

- バッテリーチャージャーは、お手近なコンセントにつないでください。
- 充電が完了してCHARGEランプが消えても電源からは遮断されません。使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- 充電が終わったら、バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り出してください。
- バッテリー（付属）を使い切ってから、温度25℃での満充電時間は約235分、実用充電時間は約175分です。使用状況や環境によっては、長くかかります。

バッテリーに関するご注意

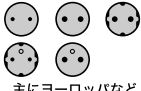
バッテリーはNP-FM55Hをご使用ください。NP-FM50、NP-FM30は使用できないのでご注意ください。

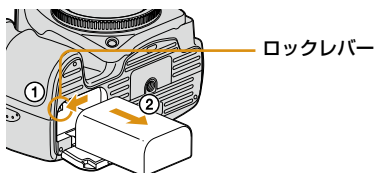
コンセントの電源で本機を使うときは

ACアダプター/チャージャー AC-VQ900AM(別売)を使うと、コンセントにつないで使うことができます→*別冊「活用編・困ったときは」144ページ*。

バッテリーの残量を確認するときは

POWERスイッチを「ON」側にずらして電源を入れ、液晶モニターで確認する。

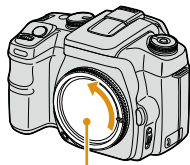
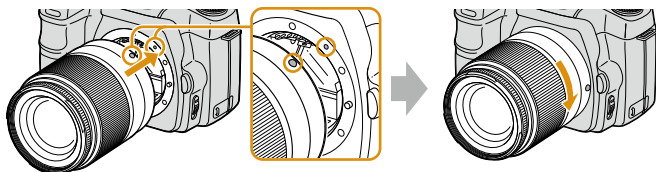
残量表示	(白)	(白)	(白)	(赤)	電池がなくなりました
バッテリー残量の目安	充分ある	少なくなった	撮影、再生がもうすぐできなくなる	充電済みのバッテリーと交換するか、充電する	シャッターが切れなくなります

バッテリーを取り出すときは

ロックレバーをずらし、バッテリーが落下しないように注意しながら引き出す。電源が切れていることを確認してから取り出してください。

海外で使うときは

バッテリーチャージャーやACアダプター/チャージャー AC-VQ900AM(別売)は全世界(AC100V ~ 240V・50/60Hz)で使えます。ただし、地域によっては壁のコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

- **電子式変圧器(トラベルコンバーター)は故障の原因となるので使わないでください。**

2 レンズを取り付ける

❶ 本機のボディキャップとレンズの後キャップをはずす。

- 本機の内部にほこりや水滴が入らないよう、また内部に触れたり傷つけたりしないようにしてください。

❷ レンズを取り付ける。

レンズと本機の2つのオレンジ色の点を合わせてはめ込む。

レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。取り付けかたは、レンズの取扱説明書をご覧ください。

レンズを取りはずすときは

レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。

レンズ取りはずしボタン

- 取りはずした後は、本機側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

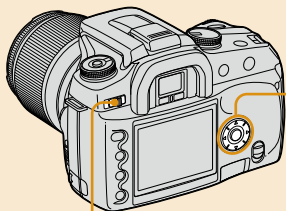
レンズ交換の際に、カメラ内にほこりが入らないように！

カメラ内にゴミやほこりが入ってCCD（フィルムの役割を果す部分）表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。

本機はアンチダスト機能によりゴミやほこりが付きにくくなっておりますが、レンズの取り付け/取りはずしを行う際には下記の点にご注意ください。

- ほこりの多い場所でのレンズ交換は避ける。
- カメラを保管するときは、必ずレンズまたはボディキャップを取り付ける。
- ボディキャップを取り付けるときは、先にキャップのほこりを落としてからカメラに取り付ける。

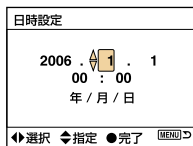
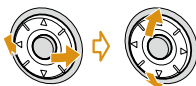
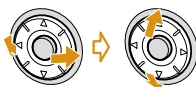
万一ゴミやほこりが入ってしまったときは、セットアップメニューで[クリーニングモード]を実行し、市販のブロアーでCCDの清掃をする（→*別冊「活用編・困ったときは」102ページ*）。それでも取れないときは、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク（裏表紙）にお問い合わせください。

3 電源を入れ、時計を合わせる

❶ POWERスイッチを矢印の方向にずらし、「ON」にする。

❷ 十字キーで、日時を合わせる。

1 [はい]を選んで、中央の実行ボタンを押す。

- 後で設定する場合は、▶で[いいえ]を選んでから実行ボタンを押してください。

2 ◀/▶で設定する項目を選び、▲/▼で数値を設定する。

3 2の手順を繰り返して、すべて設定する。

- [年/月/日]は年月日の並び順です。並び順は十字キーの▲/▼で変更できます。

4 中央の実行ボタンを押して完了する。

- 日時合わせを中止するには、MENUボタンを押す。

日時設定をやり直すときは

🔧 セットアップメニューで[日時設定]を選び、手順❷の**2**～**4**を行う。
→*別冊「活用編・困ったときは」98ページ*

電源を入れたときのご注意

- 時計合わせをしないと、電源を入れるたびに「日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示されます。

電源を切るときは

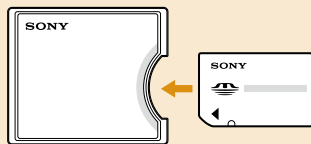
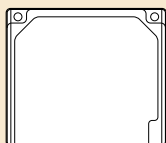
POWERスイッチを矢印の方向にずらし、「OFF」にする。レンズキャップを付けてください。レンズをはずしたあとは、ボディキャップを付けて保管してください。

パワーセーブ(操作しないでいるとほぼ電力オフに近い状態になります)

約5秒以上何も操作をしないと、液晶モニターの撮影情報画面が消えます。また約3分以上操作をしないと、省電力設定になり、ほぼ電源オフに近い状態になります(パワーセーブ)。シャッターボタンの半押しなど、本機を操作すれば、パワーセーブが解除されます。

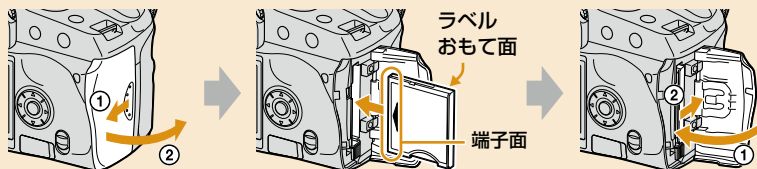
- 上記の時間(お買い上げ時の設定は5秒/3分)は変更することもできます。→*別冊「活用編・困ったときは」101ページ*

4 記録メディア（別売）を入れる

本機で使用できる記録メディアについて

"メモリースティック デュオ"
（コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプター使用）

コンパクトフラッシュカード/
マイクロドライブ

本機では記録メディアとして、"メモリースティック デュオ"、コンパクトフラッシュカード（CFカード）、またはマイクロドライブが使用できます。

- 記録メディアは、本機でフォーマットしてからお使いください。本来の性能を出せないことがあります。→*別冊「活用編・困ったときは」86ページ*
- "メモリースティック デュオ"をご使用の場合は、コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプター（付属）を使用してください。
- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"の場合は、「LOCK」を解除してからお使いください。
- "メモリースティック"について→*別冊「活用編・困ったときは」139ページ*

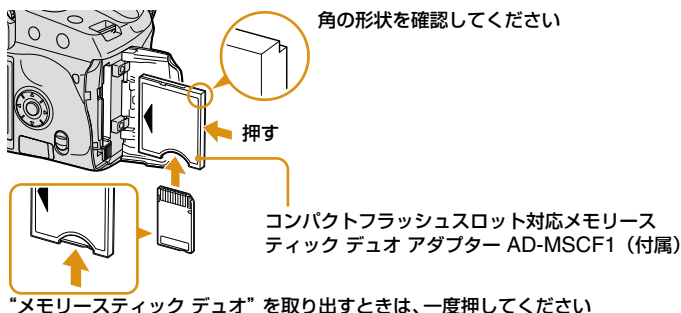
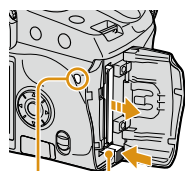
記録メディアを入れる

CFカードカバーを開ける。

端子部側から差し込む。

閉じる。

- カバーを開けるとき、指をはさまないようご注意ください。
- 記録メディアの中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- 記録メディアが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、記録メディアの向きを確かめてください。

コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプター使用上のご注意

“メモリースティック デュオ”を取り出すときは、一度押してください

記録メディアを取り出すときは

1 CFカードカバーを開ける。

2 CFカード取り出しレバーを中に押し込む。
記録メディアが出てきます。

- 長時間使用した直後の記録メディアは熱くなっていますので、ご注意ください。

アクセスランプ点灯中は

絶対に記録メディアを取り出したり、バッテリーを抜いたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。

コンパクトフラッシュカード/マイクロドライブについて

動作確認は行っておりますが、すべてのCFカード/マイクロドライブの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。

- マイクロドライブは、CompactFlash Type IIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。CFカード/マイクロドライブについて→*別冊「活用編・困ったときは」141ページ*

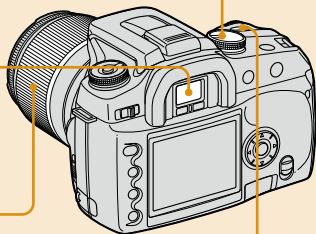
5 簡単に撮る（オート撮影）

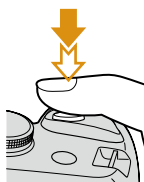
「AUTO」（オート撮影）では、本機の主な機能が、一時的に自動設定になります。カメラまかせで気軽に撮影したいときに便利です。画像仕上げ機能（→*別冊「活用編・困ったときは」47ページ*）以外の設定は、変更できます。

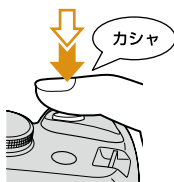
❶ モードダイヤルを「AUTO」にする。

❷ ファインダーをのぞく。

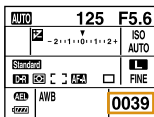
［　］の中のものにピントが合います。

❸ ズームレンズの場合は、ズームリングを回してから構図を決める。

❹ シャッターボタンで撮影する。

半押しして
ピント合わせ

深く押し込む

フォーカス表示
（ピントの状態をお知らせします（15ページ）。）

ピント合わせに使われたセンサー
（ピントの合っている位置が、一瞬赤く表示されます。）

- 撮影前の画像は液晶モニターには表示されません。ファインダーをのぞいて撮影してください。
- 撮影後、液晶モニターに撮影画像が2秒間表示されます。表示時間の変更もできます。
  →*別冊「活用編・困ったときは」81ページ*
- 記録中はアクセスランプが点灯しますので、記録メディアを取り出したり、電源を切らないでください。

撮影可能枚数

記録メディアを入れてPOWERスイッチを「ON」にすると、液晶モニターに、撮影可能枚数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。
画面表示については→*別冊「活用編・困ったときは」19ページ*

- 1枚の記録メディアに記録できる枚数は、記録メディアの容量、本機で設定された画像サイズおよび画質によって異なります。→*別冊「活用編・困ったときは」24ページ*
- 撮影直後に「--E-」が点滅したときは、"メモリースティック デュオ"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっています。解除してからお使いください。
- 「0000」が赤く点滅したときは、記録メディアの容量がいっぱいです。記録メディアを交換するか、記録メディア内の画像を消去してください（10、18ページ）。
- 画像のデータ量は被写体によって異なるため、撮影状況によっては、撮影後に撮影可能枚数が変わらない場合もあります。
- 旅行など撮影枚数の多い場合は、予備の記録メディアを用意されることをおすすめします。

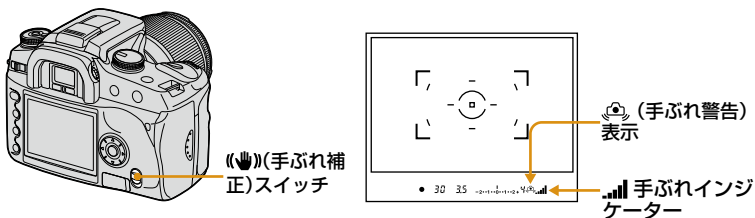
構えかた

カメラが動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。手ぶれ補正機能をオンにして使うことをおすすめします（14ページ）。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、マクロ撮影または望遠レンズで撮影する場合は、本機の手ぶれ補正機能では補正しきれないほどの手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ補正機能をオフにして、三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

手ぶれ補正について

1 ((✋))(手ぶれ補正)スイッチが「ON」になっていることを確認する。

2 シャッターボタンを半押ししてから、深く押し込んで撮影する。

手ぶれインジケーター

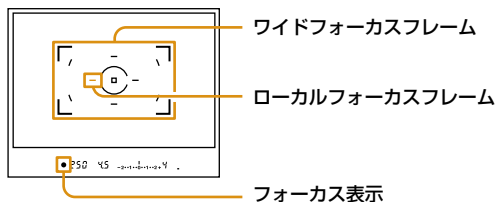
手ぶれ補正がオンのときは必ず点灯します。点灯する表示の数が多いほど、本機の揺れが大きいことを表します(最大5つ)。手ぶれ補正がオフのときは点灯しません。

(手ぶれ警告)表示

手ぶれ補正のオン/オフにかかわらず点滅します。シャッタースピードや焦点距離から判断した手ぶれ写真になる可能性を表します。点滅したときは手ぶれの恐れがあるため、((✋))(手ぶれ補正)スイッチを「ON」にするか、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。

- POWERスイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ぶれ補正の効果が得られにくいことがあります。手ぶれインジケーターの点灯数が減るのを待ってから、ゆっくりシャッターボタンを押し込んでください。
- マクロ撮影など近距離撮影の場合は、手ぶれ補正機能でもぶれが補正できないことがあります。手ぶれ補正をオフにして三脚を使用することをおすすめします。
- 本機の手ぶれ補正機能は、シャッタースピードで約2〜3.5段分の補正効果を発揮します。被写体を追いながら流し撮り撮影を行う場合や、夜景撮影などシャッタースピードが1/4秒以上の場合は、手ぶれ補正の効果が得られにくいことがあります。手ぶれ補正をオフにして、三脚のご使用をおすすめします。
- 三脚使用時には、手ぶれ補正機能が充分に働かないため、手ぶれ補正をオフにすることをおすすめします。

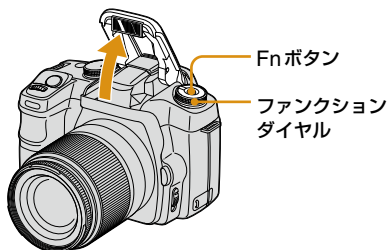
ピント合わせ

ワイドフォーカスフレームの中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が9個あります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている部分のセンサーが一瞬赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

フォーカス表示

ファインダーをのぞくか、シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内のフォーカス表示がその状態をお知らせします。

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
(●) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。撮影できます。
() 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
●点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。 • お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。 • ●の点滅中でもシャッターが切れるようにすることもできます。→*別冊「活用編・困ったときは」91ページ*

• 三脚、一脚使用時や机の上などに本機を置いた状態では、ファインダーをのぞいただけではピントが合わないことがあります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合います。

フラッシュ撮影するには

内蔵フラッシュを手で上げてください。光量が足りないと判断した場合、発光します。

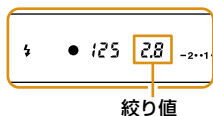
フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で下げてください。

- 必ず発光させたいときは、ファンクションダイヤルとFnボタンで ⚡（強制発光）にしてください。→*別冊「活用編・困ったときは」52ページ*

ファインダー内の ⚡（フラッシュ）表示について

⚡ 点滅： フラッシュが充電中です。
点滅しているときは、シャッターは切れません。

⚡ 点灯： フラッシュの充電が完了しました。フラッシュ撮影ができます。

フラッシュ光の届く距離（フラッシュ調光距離）

内蔵フラッシュによる調光距離（適正露出の得られる範囲）は、絞り値とISO感度によって異なります。下記の表は、ISO感度が［AUTO］のときのおおよその調光距離です。

ISO感度→*別冊「活用編・困ったときは」40ページ*

絞り値	調光距離
F2.8	1.4～8.6 m
F4	1.0～6.0 m
F5.6	1.0～4.3 m

内蔵フラッシュ使用時の注意

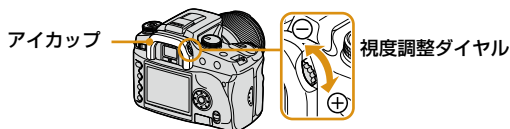
内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

- 被写体から1 m以上離れて撮影してください。
- レンズフードは取りはずしてください。
- 本機の内蔵フラッシュは、レンズ表記上18 mm以上の焦点距離の画角をカバーします。

AF補助光

被写体が暗いときに内蔵フラッシュを上げていると、シャッターボタンの半押しでフラッシュが発光することがあります。これはピントを合わせやすくするための補助光（AF補助光）です。

- 補助光の届く範囲は、約1～5 mです。
- フォーカスモードを AF-C（コンティニュアスAF（AF-C））にしているときや、被写体が動いているとき（ファインダー内に (●)（フォーカス）表示が点灯しているとき）は、補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300 mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。
- フラッシュを取り付けているときは、フラッシュのAF補助光が発光します。
- カスタムメニューの[AF補助光]を[なし]にすると、AF補助光は発光しません。→*別冊「活用編・困ったときは」94ページ*

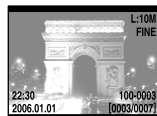
視度を調整するには

ファインダー内の画面表示がはっきり見えるように、視力に合わせて視度調整ダイヤルを調節してください。

- 遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ回してください。アイカップをはずすと回す方向がダイヤルに表示されています。→*別冊「活用編・困ったときは」38ページ*
- 本機をできるだけ明るいところに向けると、視度が合わせやすくなります。

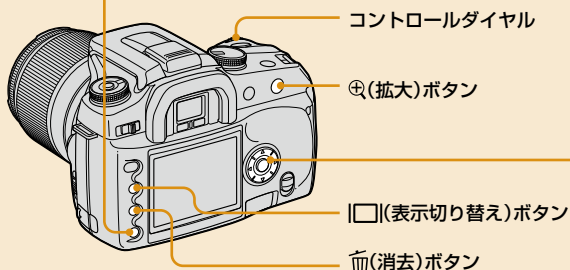
6 画像を見る/消去する

❶ ▶(再生)ボタンを押す。

❷ 十字キーの◀/▶で画像を選ぶ。

L:10M
FINE
22:30
2006.01.01
100-0003
[0003/0007]

• コントロールダイヤルを回しても、画像を先送りしたり前に戻したりできます。

コントロールダイヤル

(拡大)ボタン

(表示切り替え)ボタン

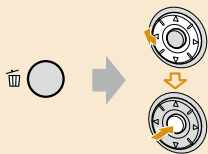
(消去)ボタン

撮影モードに戻るには

• もう一度▶(再生)ボタンを押す。
• シャッターボタンを半押しする。

画像を消去するには

1 消去したい画像を表示して(消去)ボタンを押す。

2 ◀で[はい]を選び、中央の実行ボタンを押す。

⚠ このコマを消去しますか?
はい　いいえ

消去を中止するには

[いいえ]を選び、中央の実行ボタンを押す。

(表示切り替え)ボタンで、再生画像を一覧(インデックス)画面で見たり、⊕(拡大)ボタンで、画像の一部を拡大して見ることもできます。→*別冊「活用編・困ったときは」70、75ページ*